

# 新しい国造り

## 大震災火を越えて

▷▷12

阪神大震災では毎日数千人のボランティアが活躍し全国に感動を与えました。

日本人の相互扶助精神が健在だったことを余すごなく見せたと言えるでしょう。これまでも政府が中心になって、高齢化社会に備えた民間マンパワーの活用が唱えられ、ボランティアの育成、支援策を次々と打ち出してきたが、総じて不調に終わっている。それは日本には行政が期待するボランティア像しか存在せず、国民が何となく功利的なものを感じていたからだと思います。

### ◎後方支援が大切

今回の大震災は、これがボランティアだ、という明確なイメージと動機を与えなければなりません。この息吹を今後の地球社会

を見据えた国造りに生かしていき、海外へ十数回、医師を派遣しました。国内では今回が初めてでしたが、地震が発生した十七日の午後十一時には岡山から一

と海外へ十数回、医師を派遣しました。国内では今回が初めてでしたが、地震が発生した十七日の午後十一時には岡山から一

## ボランティア活用

# 行政と役割分担明確に

# 活動に公的補助不可欠

師連絡協議会のチームが現地入りしました。本救済医療活動は希望の電話が入り、今日まで延べ千五百人の医師、看護婦、薬剤師を送り込んでいます。

「我々は二年前から、自然災害や難民保護に対応するための医療チームを組織し、ネパール、バングラデシュ大洪水やインドネシア・スマトラ島南部地震な

山空港から大阪・八尾空港に運ば、ヘリコプターで神戸ポートアイランドへ降ろした。全国からの医師や物資は岡山空港へ集結し、ここから毎日トラックとバスを出して現地を支えることができた。後方支援体制がなければ立ち往生していたでしょう。大災害には事前に確立されたシステムがいかに大事かを改めて体験したので。

◎引き揚げも素早く  
フランスの国境なき医師団など海外からの救援隊の受け入れでトラブルがありました。

「実は外務省がロス地震の時の米国やインドネシア、インドに申し入れた日本の国際救急隊

には在日外国人が急増しており、その人々のために今回、地元の市の責任で積極的に前例を作るべきだったと思います」

「一般のボランティア活動の立ち上がりは混乱しました。日本には途上国の技術支援、環境保全といった地域おこし分野の民間援助団体が多いが、緊急事態の発生で民間団体が優位性を発揮できるのは一過問まで。その後は行政の態勢が整って行くので、いち早く現地へ飛び込んで自分でニーズを探すこと。そして対人サービスはボランティアに任せ、行政はライフラインなどの復旧に当たる、という役割分担を認識して

「ただ、欧米のボランティアは神の前に平等という人権意識

「聞き手は 編集委員 山崎勝宏」

療チームも拒否されている。現地の医師が十分いたのと、通訳、薬の説明など大変な手間がかかると、今回、日本側が断つたのも同じ理由からです。でも気にしないでいい。不必要なら断つていいのです。彼らはボランティア精神を日本人に見せたことで大半の目的を達したと考えるのです。ただ、最近の日本を踏む以外ありません」

アジア医師連絡協議会代表・医師 菅波 茂



「緊急事態の発生で民間団体が優位性を発揮できるのは一過問まで。その後は行政の態勢が整って行くので、いち早く現地へ飛び込んで自分でニーズを探すこと。そして対人サービスはボランティアに任せ、行政はライフラインなどの復旧に当たる、という役割分担を認識して

「聞き手は 編集委員 山崎勝宏」

臨まないで混乱する。救援物資を売り払うやからがいていても不公平が出て仕方がない。求められるのはスピードです。そしてボランティアはあくまで被災者の自立を手助けするだけ。見極めがついたらさっと引き揚げるという原則を守ることが大切です。ダラダラと滞在するのは自立心をそいでしまふ」

◎市町村で誘い水を  
「今回、これだけのボランティアが実在したという事実を確認できた。これをシステム化していく具体策は？」

「二十一世紀の日本にとってボランティアを活用すべき分野は緊急救援のほか、高齢化社会、国際貢献、過疎地域支援などが柱になると考えています。民間だからこそ国境の壁をやすやすと越えられるし、税金による支援は使途が限定される。だからボランティアの存在が光っているのです」

「当然、活動にはカネがかかる。例えばわれわれアジア医師連絡協議会がルワンダなどに救援隊を送った昨年は保険だけで六百万円でした。ボランティアに対する公的補助制度はぜひ必要です。また日本では赤十字に集中する仕組みになっている。財の配分についても、改革すべきでしょう」